

(様式6)

公共事業新規箇所評価調書

評価確定日(令和元年 8月 6日)

事業コード	R元-建-新-05			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	通常砂防事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	砂防えん堤工			班 名	砂防班 (tel)018-860-2517
路線名等	浅田沢1及び2			担当課長名	河川砂防課長 佐々木 寿一
箇所名	由利本荘市岩城道川字浅田			担当者名	流域防災監(兼)班長 京谷 仁美
プランとの関連	政策コード	01	政策名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施策名	災害に備えた強靱な県土づくり	
	指標コード	03	施策目標(指標)名	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり	

1. 事業の概要

事業期間	R 2～R 6 （ 5 年）		総事業費	3.5 億円		国庫補助率	50.00																																																																						
事業規模	○ 砂防えん堤 2 基（H=10.0m L=60.0m、H=7.5m L=25.0m） 溪流保全工 L=170.0m																																																																												
事業の立案に至る背景	○ 浅田沢 1 及び 2 は、由利本荘市の中心部より北側に位置し、保全対象として人家 7 戸、避難路（市道）を含む土石流危険溪流である。平成 2 9 年 7 月豪雨により、当該流域内では山腹崩壊や溪岸侵食が生じ、土石流が発生した。溪床には、まだ多くの不安定土砂や立木が堆積しており、今後の豪雨等には、土砂・流木が多量に流出し、保全対象に甚大な土砂災害をもたらす恐れがある。 本事業は、人家及び避難場所までの避難路を保全するため、砂防えん堤工等を整備し、土石流災害の防止を図るものである。																																																																												
事業目的	【主たる目的】 ○ 砂防設備の整備により、下流の人家や避難路（市道）を保全し、安全・安心な地域の創出を図る。 【保全対象】 ○ 人家7戸 ○ 避難路（市道） L= 230m ○ 耕作地 A=0.2ha																																																																												
事業費内訳 事業内容 （単位：千円）	<table><tr><td colspan="2"></td><td>全 体</td><td>R 2 年 度</td><td>R 3 年 度</td><td>R 4 年 度</td><td>R 5 年度以降</td></tr><tr><td>事業費</td><td></td><td>350,000</td><td>40,000</td><td>20,000</td><td>35,000</td><td>255,000</td></tr><tr><td>経費</td><td>工事費</td><td>325,000</td><td>40,000</td><td>20,000</td><td>10,000</td><td>255,000</td></tr><tr><td>内訳</td><td>用補費</td><td>25,000</td><td></td><td></td><td>25,000</td><td></td></tr><tr><td></td><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>財源</td><td>国庫補助</td><td>175,000</td><td>20,000</td><td>10,000</td><td>17,500</td><td>127,500</td></tr><tr><td>内訳</td><td>県債</td><td>157,400</td><td>18,000</td><td>9,000</td><td>15,700</td><td>114,700</td></tr><tr><td></td><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>一般財源</td><td>17,600</td><td>2,000</td><td>1,000</td><td>1,800</td><td>12,800</td></tr><tr><td colspan="2">事業内容</td><td></td><td>地質調査等 詳細設計</td><td>用地測量 補償調査</td><td>砂防指定 用地補償</td><td>砂防えん堤工 溪流保全工</td></tr></table>									全 体	R 2 年 度	R 3 年 度	R 4 年 度	R 5 年度以降	事業費		350,000	40,000	20,000	35,000	255,000	経費	工事費	325,000	40,000	20,000	10,000	255,000	内訳	用補費	25,000			25,000			その他						財源	国庫補助	175,000	20,000	10,000	17,500	127,500	内訳	県債	157,400	18,000	9,000	15,700	114,700		その他							一般財源	17,600	2,000	1,000	1,800	12,800	事業内容			地質調査等 詳細設計	用地測量 補償調査	砂防指定 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工
		全 体	R 2 年 度	R 3 年 度	R 4 年 度	R 5 年度以降																																																																							
事業費		350,000	40,000	20,000	35,000	255,000																																																																							
経費	工事費	325,000	40,000	20,000	10,000	255,000																																																																							
内訳	用補費	25,000			25,000																																																																								
	その他																																																																												
財源	国庫補助	175,000	20,000	10,000	17,500	127,500																																																																							
内訳	県債	157,400	18,000	9,000	15,700	114,700																																																																							
	その他																																																																												
	一般財源	17,600	2,000	1,000	1,800	12,800																																																																							
事業内容			地質調査等 詳細設計	用地測量 補償調査	砂防指定 用地補償	砂防えん堤工 溪流保全工																																																																							
調査経緯	○ 平成 3 0 年度 県単砂防事業 砂防流域調査、地形測量																																																																												
上位計画での位置付け	○ 第 3 期ふるさと秋田元気創造プランにおける基本政策「県土の保全と防災力強化」を推進																																																																												
関連プロジェクト等	○ 特になし																																																																												
事業を取り巻く情勢の変化	○ 全国的に雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しており、平成 3 0 年の土砂災害の発生件数は過去最多の 3, 459 件となっている。 ○ 県内においても平成 2 9 年 7 月 2 2 ～ 2 3 日の豪雨では、土砂災害による被害が多数発生している。近年、集中豪雨による自然災害が多発しており、ソフト・ハード両面からの対策が重要である。																																																																												
事業効果把握の手法	<table><tr><td>指標名</td><td colspan="6">土石流危険溪流に対する概成率（％）</td></tr><tr><td>指標式</td><td colspan="6">対策済み溪流数／土石流危険溪流数（％）</td></tr><tr><td>指標の種類</td><td colspan="3">○ 成果指標 ● 業績指標</td><td colspan="2">低減指標の有無</td><td colspan="2">○ 有 ● 無</td></tr><tr><td>目標値 a</td><td colspan="3">16.9％</td><td colspan="2" rowspan="2">データ等の出典</td><td colspan="2" rowspan="2">河川砂防課調べ</td></tr><tr><td>実績値 b</td><td colspan="3">16.8％</td></tr><tr><td>達成率 b／a</td><td colspan="3">99.4％</td><td colspan="2">把握の時期</td><td colspan="2">平成31年 4月</td></tr></table>							指標名	土石流危険溪流に対する概成率（％）						指標式	対策済み溪流数／土石流危険溪流数（％）						指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標			低減指標の有無		○ 有 ● 無		目標値 a	16.9％			データ等の出典		河川砂防課調べ		実績値 b	16.8％			達成率 b／a	99.4％			把握の時期		平成31年 4月																													
指標名	土石流危険溪流に対する概成率（％）																																																																												
指標式	対策済み溪流数／土石流危険溪流数（％）																																																																												
指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標			低減指標の有無		○ 有 ● 無																																																																							
目標値 a	16.9％			データ等の出典		河川砂防課調べ																																																																							
実績値 b	16.8％																																																																												
達成率 b／a	99.4％			把握の時期		平成31年 4月																																																																							

2. 所管課の1次評価

事業コード (R元-建-新-05)
 箇所名 (由利本荘市岩城道川字浅田)

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○ 土石流が発生した場合、人家のほか避難路(市道)も被災することから、浅田地区等の住民が避難所へ移動することが困難になるため、事業実施の必要性は高い。 ○ 砂防法第5条により工事の施行は都道府県が行うものと位置付けられている。	27点
緊 急 性	○ 当該溪流には平成29年7月豪雨による崩落土砂や流木が堆積しており、今後の豪雨により甚大な土砂災害をもたらす恐れがあるため、早急な整備が必要である。	32点
有 効 性	○ 砂防設備を整備することにより、土石流災害から人命や財産が守られ、下流域の安全性が確保される。 ○ 土石流危険渓流に対する整備率向上に直接寄与する事業であり、施策目標への貢献度は高い。 ○ 第3期ふるさと秋田元気創造プランの施策を直接的に推進する内容の事業である。	8点
効 率 性	○ 事業の費用便益比は1.90であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 3.32 億円 ・総便益の現在価値 6.31 億円 ○ 事業実施においては、残存型枠使用によるコスト削減等の検討を行う。	15点
熟 度	○ 平成29年7月の豪雨被害を受け、由利本荘市の防災意識が高く、砂防えん堤の必要性を強く認識している。 ○ 由利本荘市から、土石流対策の早期整備について要望書が提出されている。	10点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ) 多くの項目において評価点が高く、住民の生命・財産だけではなく、避難路を保全するため必要性が高い。	92点
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 判定ランクⅠであり、優先度が高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留

4. 財政課長意見

意見内容	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留

5. 最終評価 (新規箇所選定会議)

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 砂防事業

事業コード (R元-建-新-05)
箇所名 (由利本荘市岩城道川字浅田)

1. 評価内訳

観 点	評価項目	細 別	評価基準	配 点	評価点	摘 要
必要性	災害発生時の影響（被害想定）					
	人家戸数	20戸以上	10	7	・ 人家7戸	
		5戸～19戸	7			
		1戸～4戸	3			
		0戸	0			
	公共・公益施設	以下に挙げる公共・公益施設がある 要配慮者利用施設 重要交通（緊急輸送道路、避難路、鉄道等） 防災拠点（警察、消防、役場等） ライフライン施設（電力、ガス、水道等） 利用者多数（学校、駅舎等）	10	10	・ 市道（避難路）	
		公共・公益施設がある	5			
		な し	0			
	事業の必要性					
	県関与の必要性	法令等で県が実施する事業	5	5	・ 砂防法により県が施行する工事	
		県が実施すべき広域的な事業	3			
		県が実施した方が望ましい事業	1			
	流域の整備状況					
	砂防設備の整備状況	未整備	5	5	・ 未整備	
		低い（土砂整備率30％以下）	3			
		低い（土砂整備率30％超）	1			
計			30	27		
緊急性	災害実績					
	過去の災害発生履歴	過去に災害の発生した記録がある	10	10	・ 平成29年7月災害発生	
		過去に災害の発生した痕跡や情報がある	5			
		な し	0			
	災害発生の危険度					
	想定される流出土砂量	1000m3以上	7	7	・ 計画流出土砂量8,600m3	
		1000m3未満	3			
	想定される流出流量	20m3以上	6	6	・ 計画流出流量159m3	
		20m3未満	3			
	荒廃面積	流域面積の10％以上	6	3	・ 荒廃率4.7％	
		流域面積の10％未満	3			
	河床堆積、溪岸侵食状況	破砕帯、火山噴出物地帯、花崗岩地帯、第三紀層地帯	6	6	・ 第三紀	
		その他	3			
	計			35	32	
有効性	上位計画への貢献					
	ふるさと秋田元気創造プラン	プランに関連する事業である	5	5	・ 「県土の保全と防災力強化」を推進する事業	
		プランとは別の個別計画に関連する事業である	3			
		プラン、個別計画に関連しない事業である	0			
	ソフト対策との関連性					
	公表周知している情報の内容	土砂災害防止法に係る基礎調査	5	3	・ R1基礎調査実施中 ・ 危険箇所マップに記載	
		土砂災害危険箇所マップ等	3			
な し		0				
計			10	8		
効率性	費用対効果					
	B／C	1.0以上	10	10	・ B/C=1.90	
		1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減					
	コスト縮減の具体的計画	あり	5	5	・ 残存型枠施工等の採用を検討し、縮減を図っていく	
な し		0				
計			15	15		
熟 度	事業着手の熟度					
	地元のニーズ	要望あり	5	5	・ 由利本荘市より要望書	
		な し	0			
	関係自治体等との合意形成	合意形成が済んでいる	5	5	・ 自治会長、副会長及び地元役員へ説明済み	
		合意形成がなされる見込みである	3			
		合意形成がなされていない	0			
計			10			10
合 計				100	92	

2. 判 定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	判定ランク I であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		